

第20期第1回常任理事会議事録

日時 昭和53年8月24日 15.00~17.00
場所 気象庁観測部会議室
出席者 岸保, 小平, 内田, 植村, 奥田, 神山, 河村, 関根, 新田, 松本, 増田, 山下.

報告

[会計] 7月分会計を資料により報告。
 [天気] 気象学入門講座は、順調に掲載されつつある。“天気”を規定どおりに発行するためには、学会だよりのタイムリミットは、2頁以上の場合には前々月末までに、1頁未満のときはその月5日までをお願いしたい。
 [気象研究ノート] “海洋力学”の原稿を依頼していた吉田耕造氏の遺稿が見つかった。初校進行中、9月中には発刊できる。
 [教育と普及] 7月25日~28日の4日間、気象庁講堂で行なわれた夏季大学は、盛況裡に無事終了した。その際出して貰ったアンケートは、まだまとまっていない。学生が多くなってきたことと、そのうち新入会申込者が23名にも達したことは喜ばしい傾向である。学会の事業として続けてゆきたい。

[学術会議] 第4部会が、7月25、26両日京都大学理学部会議室において開催され、中層大気国際協同観測(MAP)について審議した結果、MUレーダとMAPとの関係を明らかにするなどさらに事業計画を検討して、秋の部会に再提出することになった。なお、中層大気プログラムには、正式に気象も入ることになった。

議題

1. 奨励金受領候補者について
 奨励金受領候補者選考委員会から選考経過および選定理由書が理事長に提出され、常任理事会で3件について原案が了承されたが、全理事に対し無記名でその可否を投票して貰うこととした。
 なお、前にも話題になったことであるが、新しい賞の設置、たとえば新人賞的なものを設置し、立派な論文を書いた人を激励する賞とかを設けてはとの意見が出て、担当理事で検討することとなった。
2. 各委員会委員について

各担当理事から提出されたものを事務局でとりまとめて資料として提出、原案了承、ただし一部訂正する。

3. 外国在住日本人および外国人(団体を含む)の昭和54年度(1月~12月)の会費(別刷代金も含む)について

庶務、会計、気象集誌の担当理事および事務局員により8月10日検討した結果について報告し次のとおり承認された。

- (1) 6学会(土木、海洋、物理、建築、電気、原子力)の会費請求について調査したところ、海洋学会を除いては、全部円建なので当学会も来年から円建で請求することにした。
- (2) 従来、個人団体を問わず外国人会員には希望により“天気”“気象集誌”もしくは“気象集誌”だけを配布しているが、“気象集誌”だけの希望者が多い。

昭和54年度の値上げを機会に外国人会員に対して、個人団体共に“気象集誌”だけの会員を認めることとした。このことは日本気象学会細則第17条ではっきりさせることにしたい。

それぞれの会費は次のとおり。

区分	種別	金額	算出基礎	配付誌
個人	A	5,000	定款改正により4,300円を5,000円に	天気 天気および気象集誌
	B	9,200	8,600円を9,200円に	
団体	A	7,400	5,400円に諸経費2,000円を加算	天気 天気および気象集誌
	B	13,800	10,800円に諸経費3,000円を加算	
個人	S	6,000	A会員 会費4,000円に諸経費2,000円を加算	気象集誌
	団体	S	7,400	
Papers		6,800	(1,200円×4回)+2,000円(諸経費)	同上

4. 外国在住日本人および外国人の選挙権および被選挙権について

本議題については、しばしば常任理事会で話題となり、これも前述の会費同様8月10日に検討した結果を報告、次のとおり承認された。

- (1) 定款で通常会員と外国人会員の区別がはっきり

している。

- (2) 細則7条によると、理事および監事の選挙は次の方法による。同3で通常会員は、理事および監事に立候補することができるように定めてある。

したがって、外国人会員は、被選挙権も投票権もない。

なお、他学会を調査したところ、どこでも選挙等のことについては、取り扱っていない。

5. 前期役員への記念品贈呈について

事務局で文房具類のうちから適当なものを選び贈呈することを確認。

6. その他

「第16回理工学における同位元素研究発表会」の共同主催について。

例年のことなので共同主催とすることを了承。運営委員には、気象研究所の矢野直会員を推薦する。

承認事項 園田正彦ほか30名の新入会員を承認。